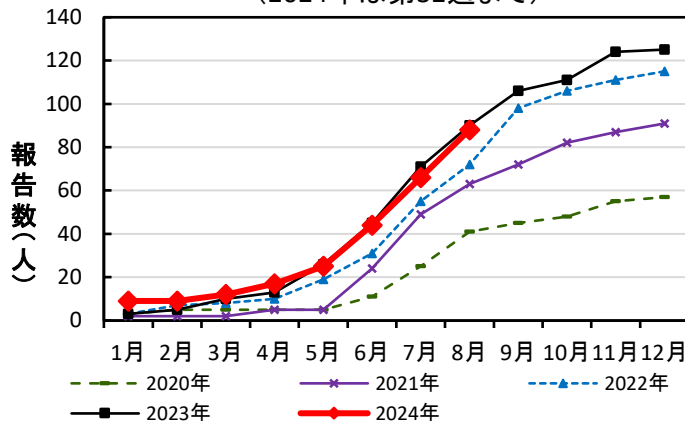




腸管出血性大腸菌感染症 の届出が増加しています！

腸管出血性大腸菌感染症 累積報告数
(2024年は第32週まで)



◆ 群馬県の流行状況

- 2024年は第32週までに88件の報告がありました。(昨年同時期: 74件)
- 例年、気温の高い初夏から秋にかけて多く報告されています。
- 今年は6月の下旬頃から患者数が増加し、現在も報告数が多い状態が続いています。

◆ どんな病気？

毒素を産生する腸管出血性大腸菌（O157など）によって引き起こされる感染症です。感染した人の糞便中に腸管出血性大腸菌が含まれており、少ない菌量でも感染し、発症するため、家族内や集団生活の中で感染が拡大することがあります。

感染経路：食べ物や手についた菌が口に入ることによる感染。
無症状者から他人へ感染させてしまうこともある。

症状：腹痛、下痢、血便、発熱

抵抗力の弱い高齢者や乳幼児は重症化することもある

(無症状の場合であっても、糞便中に菌が出ていることもあるので注意)



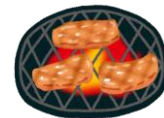
◆ 予防するには？

- 石けんと流水による手洗いを徹底する。
- 生野菜はよく洗って食べる。
- 箸やまな板などは、生肉用と生肉以外用とで使い分けるようにする。
- 生肉は果物やサラダ等生で食べるものや調理のすんだ食品に触れないようにする。
- 肉の生食は避け、中心が白くなるまで十分に加熱調理（75度で1分以上）して食べる。
- 調理器具の洗浄と消毒をしっかりと行う。



◆ 感染を広げないために

- 下痢や腹痛などの症状がある人は、速やかに医療機関を受診する。
- 症状のある人は家族と一緒に入浴せず、最後に入る。シャワーやかけ湯がよいが浴槽に入る場合は石けんで体を洗ってから入り、入浴後は水を抜いて浴槽を洗う。
- 症状のある人の下着は、塩素系漂白剤でつけ置き消毒し、家族のものとは分けて洗濯し、洗濯後は、ゴミ取りネットの掃除を忘れずに行う。
- トイレやおむつ交換のあとは必ず手を洗う。



★ 腸管出血性大腸菌感染症についての詳しい情報: <https://www.pref.gunma.jp/page/3310.html>



*この情報に関するお問い合わせ先：群馬県感染制御センター（群馬県衛生環境研究所）

TEL: 027-232-4881

E-mail: kansenseigyoc@pref.gunma.lg.jp